

# 備陽史探訪

第39号  
発行  
備陽史探訪の会  
福山市西深津町7-2-7  
印刷所 塩出印刷

## 成羽吹屋の里を 訪ねて

後藤 匡史

快晴に恵まれた九月の例会は、岡山県川上郡成羽町と吹屋ふるさと村である。

ここは江戸時代中期の頃より弁柄が生産され又銅山経営と相まって繁昌した所であった。

本日の担当は会長と副会長の田口氏であったが田口氏が用事の為ニツカ仕立の説明を求められ、戦国時代成羽三村氏と関係のあった水野勝成のことや芳井正霊山城主藤井能登守皓玄を折りこんで話せばバスは丁度、正霊山城の横を走り抜けていた。川上郡にはいつてからか誰かが突然アッー木口小平の家だッと呼んだ。何んと道の左側山の中腹に木口小平生家と書いてあるではないか。

この人こそ誰であろう、あの日露戦争の時死んでもラッパを離しませんと

戦前ではあまりにも有名な人である。其の後バスは成羽の町にはいつて最初に資料館に行き、ここでは倉敷大原美術館創設の大原孫三郎に依頼されて絵画の収集にあたった成羽出身

で洋画家の児島虎次郎の絵や美術品を見て、ここから出崎氏の鶴首山城跡下の館跡、そして今日のメインのベンガラ

の里、西江邸では、石州瓦と白壁が印象に残り国の重要伝統的建造物群保存地区指定のベンガラ格子の家が建ち並ぶ吹屋ふるさと村では、おのおのがウドンやソバに舌鼓をうち、おみやげを買って午後からは広兼邸へいった。ここは映画八ツ

墓村のロケが行なわれた所で前の茶店の所にショーケンこと萩原建一、藤岡たくや、下条正己、小川真由美等の記念写真がはってあった。この広兼邸は西江邸と対症的にその

豪かしい石垣と桜門を配して城郭と見まがう様な造りは富と財力にものを云わせた富豪を偲ばれるに十分である。中にはいると封建時代のま

まの配置がしてあったが、その中で御手洗の場所では日本人の慣性が造らしめた水琴窟がこしらえてあり、水を流すと、かすかにキーン、コーン、カーンと音がして江戸時代の風流にしたった。そして最後にベンガラ工場跡を見てから、帰りは備中高梁の方へ廻って、高梁では幼君勝久を擁して尼子家再興を計ったが合の渡して討ち死にした山中鹿之介の胴塚が向う岸に見え、細川たかしが矢切の渡し、山中鹿之介が合の渡し「何んちゃって」と云えば一同大笑、それでも鞍の静観寺の首塚は知

っていたが今まで胴塚がどこにあるか知らなかったが、やっとわかったと云ってくれた時は泣くにも笑えんほどうれしかった。それから途中、矢掛の脇本陣や本陣は只今修理中であった。そして夕やみ迫まる三百十三号線

一路バスは西へ向かい福山の駅に着いた頃は、スッカリ夜のとはりはおりて家路に急ぐ足音を残しながら別れた。

一句  
秋の日や  
ベンガラ格子に  
人の群

## 吹屋記行

### 九月例会参加して

末森 清司

吹屋ふる里村と聞くとベンガラ格子の古い町屋が並ぶ風情ある文化財のある町というイメージがうかぶが、私は江戸時代からべんがらという赤色の粉を製造していた所というイメージがつよい。九月例会はこの吹屋探訪との事で早々と参加希望、何とか三〇名の中にすべりこむ事が出来た。

当日はこれ以上の好天はないという位の初秋の澄切った空の下、全員三〇名をのせたマイクローバスは備中路を行く。

今月の案内役は神谷会長、毎度の名調子で所要所の説明は的を射て見事なもの。

最初の見学地鶴首城跡のある成羽町、中世山城のふもとにこじんまりとした町、この成羽町の文化センターの博物館・美術館は美事なもので博物館には古代エジプト・ギリシャの美術品がびらりと陳列されている。美術館にはこの町出身の児島虎次郎画伯のすばらしい絵画がびらり：……。

久々に参加された会の長老加藤先生が一言、

「こんな山奥の小さな町にすばらしい美術品があるなんて……」と感心されていた。

この紅鶴首城跡のふもとにある山崎氏の御殿跡の石垣をみて成羽をあとにする……。

成羽川に沿って谷あい道をゆくまわりはぼつぼつ黄金色に変わりつゝある稲田、のどかな田舎道をぬって吹屋へ。

吹屋はホントにべんがら格子の町並が道をはさんで並び素晴らしい風情だ。時今日は好天で観光客が多く少しざわついているのが気になったがこれは仕方ない事……。

この吹屋には西江邸と広兼邸のふたつの豪邸があり早速見学したが、銅山とべんがらで富を築いて建てただけあってどちらもみごとに家である。共に江戸時代の建物との事で文化財としても立派なもの、私は時々感心しきりだった。吹屋での最後の見学地はべんがら工場である。このべんがら工場昔のまゝの製造工程をそっくり復元したものでべんがらを作る工程がそっくり見学出来大変勉強になった。水車を利用して歯車を組合せて作られたかくはんの設備等は仲

々のもので当時の仕事ぶりが分り勉強になった。

べんがらは私の仕事に大変かゝりがあり塗料の原料のひとつ着色剤として使われておりそれだけに昔ほどの様にして作っていたのか知りたかった事だけに意義深いものでした。

それぞれの想いを残し吹屋をあとにして六時過ぎ全員無事福山に帰り着きましたが、又一度ゆっくり味わってみたい今日一日の行程でした。皆様本当にごくろう様。

一言 めずらしくこの度は若い方の参加が有りませんでした。案内役の神谷会長 有がとうございました。



### 美作路を後にして

種本 実

小雨の中、バスが福山市内に帰ると、明日からの仕事の事や家族の事などが急に浮んでくる。

同じバスで、同じメンバーで、同じ飯を食い、同じ宿に泊り、飲んで歌い、又励し合って登った山城等々の二日間、本当に楽しい旅ができたことを喜んでいきます。

帰宅すると、祭の今日、子供みこしと共に町内を歩いた二児と妻に囲まれて旅広の話と、祭の話と、みやげの饅頭で茶を飲みました。家族つていいものですネ。

それにしても、説明役の田口さん、後藤さん他皆さんの内容の濃い話に今回も感嘆、そして酒を欠かせないSさん、最後までマイクに口づけの三原のSさん、いづれも当会が誇る一騎当千の兵ぞろい、本当にご苦労様でした。

さて、二日目に神谷会長から仏教についての話がありましたが私は耳立てて拝聴しました。というのも、最近になって年のせい我家のお寺や仏教に関心がでてきたのです。

お寺の由来は地域の歴史に重り、「心の時代」といわれる今日、仏教各宗派の歴史、教えを学ぶことは豊かな心の糧にもなります。当会でもお寺と仏教について市民に啓蒙できる場を設けてほしいと願うものです。

### …一泊例会に

参加して…

岩川 豊子

去る十月十日、十一日と、この会に入会して初めて旅行に参加させて頂きました。

院庄インターへ着く迄は、恥かしながら殆ど眠っておりました。作楽神社では、パッチリと目覚め広い境内をのんびりと歩きました。津山城では、昼食にとても美味しいお弁当を頂き大満足でした。城といっても建物らしき跡は残っていませんでしたが、石垣の雄大さには驚きました。それから想像すると、それはそれは立派な城であつたらうと思います。その昔、今私が登っている石段を誰かが登り、私が立っている同じ場所に誰かが立っていた。その時から今日迄歴史は確実に続いているんだなあとしみじみと感じました。

私は、そんな気分になるのが何故かとても好きなのです。桜の木も多くて、今度はお花見の頃にもう一度訪れてみたいと思いました。

宿泊は、温郷温泉でした。待ちに待った温泉だったのですが、少し浴場が狭かったのが残念でした。しかしそれも宴会の盛り上りで一挙に挽回、飲んで唄って踊ると、楽しい一夜でした。

翌日は兵庫県迄足をのぼし、山中鹿之介で知られる上月城へと登りました。幾度も落城をくり返した悲運の城と聞いたせいか、どことなくうら悲しい雰囲気を感じていました。

この旅で一番感激したのは誕生寺でした。しかし恥かしながらここへ来る迄この寺がどんな謂れの寺か全く知りませんでした。寺とか、神社と

いうのは、大好きなのですが無学な私は、特別に有名な所以外その謂れは知らず、ただそこに秘められた神秘性、静けさの中でセンチメンタルな気分にとっぷりと浸るのが、やはり大好きなのです。その点でも、又美しさでも最高の場所でした。

誕生寺に心を残しながらバスに乗り、妙覚寺を見学すると、一泊二日の旅もあつという間に終わります。

誰一人、怪我も病氣も迷子も無く無

事福山へと帰って来る事が出来たのも、お世話をして下さった方々の御陰と心より感謝しております。楽しい旅をありがとうございました。

ただ、バスの中でも旅館での宴会でも、良く食べ、良く飲み、良く唄い、少しはしゃぎすぎてしまい、私のお上品？なイメージがガタガタと音をたてて崩れ落ちてしまったのではな

いかしらと、それだけが心配です。まだ旅行に参加された事の無い方も来年は是非参加されてみてはいかがですか？一人であられても充分満足できると思います。年令に差はあっても同じ喜びと価値を求め合う者同志、きっと素敵な輪が広がると思

### 十月例会 美作路一泊旅行

後藤 匡史

此の度の旅行で、上月城に行った時のことである。播磨、美作、備前の三国の位置する。天正五年（一五七七年）毛利の先兵として、西播磨五郡を領して上月城を守っていた政範は秀吉軍一万三千の前に落城した。大平山々上本丸跡に「赤松藏人大輪政範君之碑」と刻まれた石碑が秋の

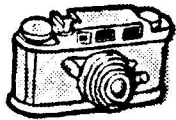
日差しをあげ淋しく建っていた。其の後、山を降り、北山麓に「尼子勝久公四百年遠忌追悼碑」と山中鹿之介追頌之碑」が建っていた。

幼君勝久をして毛利に最後のリターンマッチをいどみ敗れさり、又、あの月山富山城にて三笠山々上に出る月に向かい、限りある身の力為さん願わくば我に七難八苦を与えたまえと月に祈った鹿之介の碑である。

若い小林良子さんや岩川の豊ちゃん等は碑の前でカメラに納まる時なぞ、まるで彼氏に会った様な、そのうつろな眼なごしは感傷にひたっていたのか、又、ここに来ただけでも目的は達したとでも云いそうなそんな表情をして、僕は……好きにせいと云ってカメラのシャッターを押し

一句

何処までも  
月とは切れない  
鹿之介



### 新入会員紹介

CONFIDENTIAL  
備陽史探訪の会  
個人情報が含まれるため掲載できません。

のおふたりです。  
よろしく願います。

### 受贈図書(敬称略)

◎家系研究(第16・17号)

家系研究協議会(秋田県)

◎郷土史誌もとやま

第11・12号)

本山町郷土史会(府中市)

受贈図書については、順次整理し、皆様に公開しますので、閲覧等のご要望がありますたら役員の方まで連絡して下さい。

備後の武將

ならさきひこさ えもんのおかけ

榑崎彦左衛門信景

榑崎氏の家譜によれば三郎左衛門  
豊景の嫡子で、初名九郎次郎、毛利  
元就、同輝元に仕え軍功があったと  
いう。

榑崎氏は戦国期には、府中市久佐  
町の二子山城に拠って周辺を支配す  
る国人領主に成長しているが、豊景  
以前のことは不明の点が多い。近世  
の諸記録によれば正慶二年(一三三  
三)、芦田郡地頭職として備後に土  
着したというが、確実な資料で裏付  
けることはできない。又、その本拠  
久佐(草)村の諸職は尾道の浄土寺、  
及び京都の西方寺が保有しており、  
それらと榑崎氏との関係も不明であ  
る。一説には永祿二年(一五五九)  
所替によって備中新見より移って来  
たという。備中北部には南北朝時代  
より国人榑崎氏の名が見え、又、信  
景の子元兼は備中北部に東接する美  
作月田山城主としても活躍している。  
これらのことから、その年代は別  
にして後説の方が真実に近いのでは  
なからうか。

榑崎氏は天正末年、芦田郡内で三

百石、世羅郡内で六百余石(共に年  
貢収納高)を領しており、備後では  
中規模の国人領主である。  
(城郭研究部会)

城研ニュース

No. 7

城郭研究部会

中世再発見

盛會裏に終る

中世を読む会特別例会として催し  
た講演＋スライド上映による「中世  
再発見」は去十月二十五日(日)、  
午後一時三〇分より福山城月見櫓に  
於て無事行なわれた。

参加者三十余名と前評判に比して  
ややさびしい陣営であったが、山内  
さん、下津間さんの熱弁と相まって  
好評裏に終えることができた。

出内さんのお話は史料の少ない中  
世の地域史を研究する者にとっては  
その地名と伝承を生かした好事例と  
して非常に参考になるものであった。  
又、下津間さんの草戸千軒遺跡のス  
ライドは身近すぎて関心が薄れがち  
であった草戸千軒を改めて見直す機  
会となったと思う。今後もう一度

「草戸千軒発掘」の意義を問う必要  
があるのではなからうか。

☆ 神石郡油木町の史跡探訪

中世再発見で講師を勤めていただ  
い、出内博都先生に、お話し舞台、  
神石郡油木町の中世遺跡を御案内し  
ていただくことになった。  
古市城山、土居、永聖寺、高子山城  
跡など興味深い史跡が多い。

期日 十一月二十三日(月)

午前八時三〇分 福山駅裏キ  
ヤッスルホテル前集合

会費 二〇〇〇円(ガソリン代等実  
費)

申し込み先

〒720 福山市多治米町九一六

田口義之方

TEL 0849 (53) 6157

※定員二〇名位

備考 弁当持参、雨天中止、山歩き  
できる服装、なお、自家用車  
に分乗しますので車をお持ち  
の方はなるべく自分の車でお  
越し下さい。

城郭研究部会主催

中世を読む会

十一月例会のお知らせ

期日 十一月二十日(金)

午後七時～九時

場所 福山市中央公民館(花園町)

和室

テーマ

中世武家文書を読む(十一)

応安六年六月十一日付千光寺

領地比内本郷領家方代官職

補任状に就て

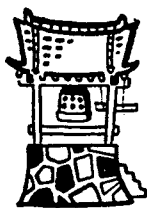
堤 勝義

会費 初心者三百円(資料代込)

〒720 福山市多治米町九一六

田口義之方

TEL 0849 (53) 6157



城郭研究会特別例会

バスツアー史跡めぐり

藤井皓玄と神辺合戦

参加者募集

戦国時代、備南の中心だった神辺城は、天文七、天文十八、永禄十二年の三回落城している。中でも謎を秘めているのが永禄十二年の合戦である。

この合戦は神辺城の元家老であった備中芳井の城主藤井皓玄が、城主杉原盛重の出陣の留守をねらって神辺城を襲撃したもので、一時その企ては成功するが、榑崎氏を始めとする毛利方の国人衆の反撃を受け、皓玄の夢は破れ、神辺城は再び杉原氏のものとなった。

昨年、城郭部会では特別例会として神辺城跡上で現地講演会を行なったが、今回はその続編として、永禄十二年合戦の主役、藤井皓玄の故地を訪ね、そのエネルギーの源を探ってみたい。

主な見学地

神辺城跡杉原屋敷跡 杉原盛重の居館跡と伝える、神辺城跡の北麓にある。

善福寺(井原市) 足利將軍家の祈願所として中世栄えた禅寺。

正靈山城跡(芳井町) 藤井一族の本拠である。

中山城跡(ク) 藤井氏に与同した河合氏の居城で、山麓に河合一族の菩提寺と墓石が残っている。

山野歴史民俗資料館(福山市山野町)

募集要項

期日 十二月六日(日)

午前八時三〇分 福山駅裏キヤッスルホテル前集合

スケジュール◎八時三〇分福山発

九時神辺城跡―十時善福寺―十一時芳井公民館(講演、昼食)―一時正靈山城跡―二時三〇分中山城跡―三時三〇分山野歴史民俗資料館―五時半福山着解散

講師 城郭研究会(山城跡) 特別講師 立石定夫先生(井原庄と藤井氏、河合氏)

会費 三千円(バス代等実費)

申し込み方法 左記迄ハガキか電話

でお申し込み下さい。

〒720福山市多治米町九一六

田口義之方

TEL 0849(53)6157

※定員(四五名)に達し次第締切ります。

備考 弁当持参、小雨決行、山歩きできる服装で(五〇メートル位)の小山に登ります(問い合わせは田口まで)

昭和62年度

たたら研究会大会のご案内

ご案内

表記の大会を下記の要領で行いますので、多数ご参加下さいますようご案内申し上げます。

今年度はたたら研究会発足三十周年にあたり、古代鉄生産(中世を見通して)をテーマにシンポジウムを開催します。

〒720広島市中区東千田町一―一八九

広島大学文学部考古学研究室内

たたら研究会

TEL 082(24)1221 (内線3972)

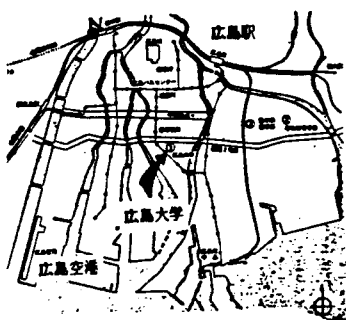
一、日時 昭和六十二年十一月二十八日(土)・二十九日(日)

二、場所 広島大学文学部大講義室(文学部二階)

(広島市中区東千田町一―一八九)

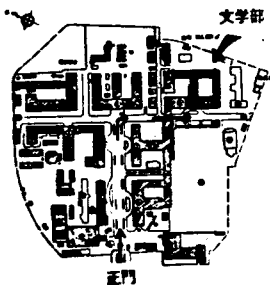
三、日程 十一月二十八日(土) 十三時三十分―十七時三十分

会場案内および交通案内



広島駅前から電車・バス「宇品行(紙屋町経由)」で「広大前」下車(所要時間30分)

広島大学文学部考古学研究室



考古学・潮見 浩(広島大学) 「考古学からみた古代の鉄生産」 文献史学・交渉中 「文献史学からみた古代の鉄生産」 技術・佐々木 稔(新日本製鉄) 「古代の鉄」

十分 開会、公開講演会

# 福山市本庄町の

## 山城調査報告

去十一月一日(日)午前、城郭研究部会一行は福山市本庄町に赴き、城郭三ヶ所を踏査した。

本庄町は、旧深津郡に属し、中世には杉原本庄と呼ばれたところで、江戸時代は城下五ヶ村の一つであった。『西備名区』(江戸後期の著述)によると、本庄村には、飛地山城、九日ヶ嶺城、高崎城、の三つの城跡が残るとされ、城主として杉原氏や岩佐氏の名が書き上げられている。

午前九時、芦田川土手福塩線踏切に集合した一行四名(田口、佐藤(鑰)塚本、中村)はまず通称本庄富士と呼ばれる高崎城を目ざした。高崎城は比高三十メートル程の小山で山頂に石槌神社が建っている。約五分で山頂に到着。山頂の主部(本丸)は径十五メートル程の平坦地で、北に一段下って三十メートル×十メートル程の郭(二の丸)がある。この郭は主郭側に二条の空堀と土塁、北側に一条の土塁空堀が残り、非常に保存のよい城跡の一つである。こより、地元の家本氏の案内で尾根を北

に進み九日ヶ嶺城跡へ、この城は九日ヶ嶺と呼ばれる深い谷の南側にそびえる山城で二、三の郭跡が雑木林の中に残っている。

九日ヶ嶺城の東下は東洋自動車学校で急傾斜を一気に下り、飛地山へ。途中塚本氏の案内で本庄村古城主と伝わる岩佐左膳の石塔を見学。この石塔は五輪塔の残欠と思われ、高崎城本丸の東直下に存在し、背後には土居屋敷跡と思われる削平地が残り城主の居館跡と推定される。

飛地山は高崎城の東南の低丘陵で、山頂に城郭かと思われる平地が残るのみで、山城の遺構と断定できるものは存在しない。

下山後、本庄八幡社、円照寺を見学して午前十一時三〇分解散。市街地の近郊にこんなに多くの史跡が残っているものか、と改めて再認識した半日であった。

(田口記)



### 歴史研部会

### シリーズ 仏教を学ぶ

その1 弘法大師と

神鳥霊場めぐり

一、目的 ①古来庶民信仰として親

れてきた四国遍路と同じように、約二五〇年前に開かれた神鳥八十八カ所霊場を、その一部ではあるが巡拝することとで「遍路」について体で学ぶ。

②弘法大師の人と教えについて学ぶ。

③神鳥の歴史と民俗について学ぶ。

二、日程 十一月二十九日(日)

七時五十分駅前集合  
各自JR切符購入

福山駅発8:13↓JR↓

笠岡駅着8:28

笠岡駅発8:50↓井笠バス↓

神鳥入口着9:10

説明 神鳥遍路会館にて

9:30~10:30

講師(神鳥の方です)

・安養院住職-安原氏

・神鳥、四国の遍路案内を長年されている-平山氏

会館発10:30↓昼食↓

32番(外浦)15:30(約10km)

外浦発16:10↓井笠バス↓

笠岡駅16:45着 JR17:13発

福山駅着17:27着

三、会費 会員 五〇〇円

非会員 八〇〇円

+電車、バス代

四、他 小雨決行・弁当持参・

健脚むき・歩きやすい服

装

### 編集後記

早いもので、会報の編集をはじめて担当して、もう今年の最終号となつてしまいました。

今までこんなことをやったことなかった僕が、ここまで出来たのも皆様のおかげと感謝しております。

紙面のわりふり、構成等お見苦しい点が多々あったと思いますが、今年反省とし、来年こそはということにして、今年最後の編集後記をおわりにします。

